



上山小学校「風のたより」

令和6年4月12日（金） 校長 有谷孝彦



学校経営目標：ふるさとを愛し、
自らの未来を切り拓く児童を育成する



418人勢ぞろい！

登校坂に桜の花びらが散り、まるで桜色の絨毯を敷いたようになっていました。4月10日に多くのご来賓や保護者の皆様の祝福を受け、新入生65人の入学式を無事に執り行うことができました。まだ、ランドセルに背負われているようなあどけない新1年生の姿を見るだけで、笑顔がこみあげてきます。これで全校児童418人となりました。1日1mmでいいから成長できる令和6年度といたします。どうぞ、ご協力の程よろしく申し上げます。



校内を巡視していると、ものすごく気合が入っている児童の様子がかげえまます。新たな仲間や担任、教室、教科書・・・気合が入るのが当然だろうと思えます。しかし、ロケットスタートは黄金週間の頃にガス欠を起こす可能性が高いです。ゆったりとした会話や美味しい食事、団欒が大切ですよ！（*^^*）



⤴ 抜粋 ⤵

私から あなたへ
この歌を届けよう
広い世界でたった一人の
私の好きなあなたへ
知りあえた あなたに
この歌を届けよう
今後よろしくお願ひします
名刺がわりにこの歌を

切手のないおくりもの
財津和夫

人間関係づくり！

年度替わりだからというわけではないのですが、私たち大人も子供も「人間関係づくり」には多くのエネルギーを費やします。私は、人間関係が一度壊れると完全修復は無理だと思っています。修復できたと思っても心の奥底に何とも言えない蟠りが残っているものです。



令和6年度の入学式で新入生に向けて次のような話をしました。「『ありがとう』とか『ごめんなさい』などの花束のような温かい言葉をつかえることがとても大切です。」と。少しでも言葉によるトラブルを回避し、良好な人間関係をつくってほしいからです。

最近、「言葉」について考えていることなのですが、一度、口から放ってしまった言葉は、二度と口の中に戻ることはないので、「イライラしているとき」はもちろんですが、「ノリノリなとき」もできる限り意識して、口数は減らした方がいいと思っています。心の状態が良くも悪くも、落ち着いていない時に口にした「余計な一言」は、大切な人とのつながりを一瞬で粉々にすることだってあります。言葉の重み、言葉の持つ力はとても大きいと思います。

人間同士の言葉のやり取りの中では、そのようなつもりではなかったのにもかかわらず、捉え違いによるトラブルは必ずあります。そのような時に素直な気持ちで向き合えるような言葉が遣えるといいですね。

いつも潤いをありがとうございます！

心に潤いが必要であることは皆さんご存知のとおりです。潤いの得方については様々ですが、私は校長室に置かれる花から潤いを得ています。この花は定期的にかえていただいているのですが、事務補助の伊東さんがご自宅の庭から持ってきていただき飾っていただいているものです。私のようなガサツな男でも素敵な花があると優しい気持ちになれます。また、飾っていただいている伊東さんの心にも潤いをいただいております。「教室に一輪の花」もいいですね！私たちが小学校の頃は、誰が飾ったのかはわかりませんが「一輪の花」が飾ってあったのを思い出しました。



☆上山小のHPをリニューアルしました。一部工事中ですがご覧ください。